

●竹蛇籠付近での「春の生き物調べ」

26日(土)10時から 竹門康弘先生と京都大学生等20数人が調査をし、57種 382個体を捕獲しました。希少種のヒバリマネゲンゴロウが確認されました。これは比較的清流に住むもので、桂川などでは見つからないものです。木津川の清流さを表している生き物だそうです。約2時間の採取時間でしたがそこそこの成果でした。蛇籠の設置以来数十回の冠水があり、最近も2.5mの高さまでの増水が3連続で来ました。したし、秋の21号台風では流れ橋が流出するという大増水があり、かなり厳しい条件が続きました。その結果コメ俵の積み上げ方式で作られている蛇籠の上の部分が5基とも流失し、先端部分の下部が深くえぐられて沈下しています。深くなって大きく変形しています。また、流速も早く、大変化しています。今回の調査で、どのように修復していくのか、慎重な検討が必要だということになりました。

京都大学の竹門先生や田住君たちは午後にも調査し、翌日にはドローンを使って地形の撮影、測量作業を行っていただきました。

●里山農園の定期作業日 26日10時～大村、森島、吉村、金田氏が作業

農園では大村さんや森島さんが中心となって土曜日と火曜日の午前中を作業日と決めています。これは申し合わせで、強制的ではなく、できるだけ、ご参加くださいという呼びかけです。この日の作業は翌日に行われる団地の朝市への出店物とする豆の摘み取りと。雨季梅雨も近づいているので、水はけをよくするために溝の整備と草刈を行いました。今年は5本のササユリを確認しましたが、ササユリの蕾は月が替われば開花が始まるのではと予想されます。これまで教育棟の斜面に咲いていたものは昨年に引き続き姿が見られません。1本の茎に5輪が咲いた一昨昨年の最後に2年連続期待を裏切っています。少し残念です。

近日中に、花日が訪れるのではないかと期待が膨らみます。

次の土日には開花が見られるかもしれませんね。

●川の恵み 山川草木 野草料理の楽しみ 約35人参加 新レンジャー村上ゆいさんの初イベント

江南先生を迎えて「野草料理の楽しみ」についてお話を頂きました。先生が長年の研究成果の一端をあっという間の2時間でお聞きしました。イングリッシュガーデンとして庭園文化が日本や世界各地に普及宣伝されていますが、江戸時代に花開いた日本文化が広く活用されているということでした。日本に生育している植物が活用されて、改善されていて日本の誇りになるものである話されました。

講演後は、アカメガシワのお茶の振る舞いがあり出席者一同美味しくいただきました。また桑のお茶も同時に味わいました。

その後木津川に出て、河川敷の散策をしながら学びました。真桑と山桑の見分け方について詳しくお聞きしました。木津川にある桑は殆どが真桑で大きくておいしい実がつくとのことで見分けができる、実際に口にするととても美味しく甘い味がしました。木肌はつるつるしていました。山桑は木肌がザラザラしていて実はあまりおいしくなく、小さいと言ことで、両方とも葉の形は同じようで、葉で見分けるのは難しく、木肌の違と実の大きさ甘さ美味しさで判断するのがいいと教えていただきました。先生には、できるだけ近い間に再度お越しいただき自然素材料理をお教えていただく時間をお願いしておきました。これまで七草かゆやその活用、そして春の野草を味わう会などでの改善を教えていただくことにしました。

その節には多くの皆さんのお越しをお願いいたします。

●城陽市教育委員会 キッズ・スポーツ 魚とり体験

木津川の本川と流入支川での投網体験 水質測定体験で40人以上の参加がありました。教育委員会の末光さん(女性の若手職員)が中心となって準備を進めていただきました。8時過ぎには現地にお越しいただきブルーシートなどの準備をいち早く行っていただきました。9時前には全員が出席確認、開会挨拶もそこそこに、木津川での注意と川の危険をお話し、ライフジャケットをつけ、タモ網の使い方と網の形について説明し、めいめいガサガサ取りに挑戦しました。約1時間しっかりと魚を追込み全員が捕獲できたようです。

次に投網投げの挑戦で、肘を張って肩に担ぎ網を投げるのですが、かつぐことやひじを張ること、そして右手で手繰った網を勢いよく投げるのですが、初体験なので急所が呑み込めず、至難の業のようでした。10人のグループで前後2回の指導を行いました。指導する方も教えてもらう方も初体験なので指導役の金田さんは悪戦苦闘でした。子どもたちの苦労を見て、スタッフとして参加している里山の会員さんが、マンツウマンで援助しました。それでも、うまく投網を投げられた女の子はオイカワが捕獲されて感激されていました。そして12時前にパックテストで水質測定体験を行いました。指導を担当してくれた有田さんがストップウォッチを使って試験薬の反応時間を計りました。終了は12時で30分オーバーしましたが、満足顔で帰路につきました。スタッフとしてお手伝いを頂きました皆様有難うございました。

●2018年度京都府地域力再生プロジェクト事業交付金申請する

事業総額 300 万円 （8 事業） 総参加人数目標 500 人と設定。 事業名 木津川の生態環境を知り、山城の歴史と自然を学び、地域力再生への一助とする

8 事業の紹介 1：親子で遊ぼう学ぼう魚とり：親と子が共に学ぶ場を提供し自然に触れる場とする。7月～8月（木津川市・京田辺市・城陽市）7回開催予定

2：中聖牛の設置：第2次増設を行い、効果測定する川づくりを住民の手で行う場とする。（井手町）

3：竹蛇籠の修復：伝統河川工法の伝承を図り、普及をはかる（井手町・京田辺市）。

4：希少植物生育地図化：木津川生育植物の生育地のCD化。

5：カスミサンショウウオの生育池の水位測定器の設置（希少生物の生育環境を継続的に測定する装置を設置する）。（京田辺市）

6：県外研修：コウノトリの復元で地元再生の取り組みを学び、里山農園に生かす。兵庫県（豊岡市）

7：京都子どもの水辺：水辺での活動は発表から学びあい交流をはかる場の提供をする。8月18日（八幡市：さくらであい館）

8：木津川はどんな川現地説明会：木津川の役割、山城 地域の歩みを知る展示と講演を実施し、地域再生への一助とする。（南山城村・和深町・精華町・井手町・久御山町）。交付決定通知は例年8月中旬になっています。事前着手届を提出して、事業を推進する子になっています。週刊ユースで開催要項をお知らせいたします。

● 6月1日(金)9時～ 除草しておいた刈草の収集作業を予定しています

熊手で収集し、後日運び出します。播川理事長や有田理事さんが中心になって作業を行います。お手伝いいただけるみなさまは草内倉庫に遅れないようにご集合ください。10 か所8, 000平方メートルの刈草を集めます。時間が早ければ巨大なガラ入れ袋に収納します。